

## 平成28年度 同窓会総会・懇親会報告

平成28年度の総会は、7月2日（土）17時から白石市の舞鶴会館にて開催されました。今年度は、本同窓会設立100周年へ向けての第一歩の年であり、役員改選の年でもありました。今年度は86名の参加者がありました。

菱沼会長より、平成28年度同窓会活動方針が提案されました。内容は以下の通りです。

### 平成28年度同窓会活動方針

東日本大震災の発災から5年程経過しましたが、沿岸部では未だに復興が進んでいない地域もあり、また本年4月の熊本地震による甚大な災害や、地球温暖化が一因と思われる異常気象による局地的な豪雨等の自然災害が各地で頻発している現状を考慮すると、人類を挙げての温室効果ガスの排出削減への一人一人取り組みが大変重要と思われます。

また、経済面においては大企業を中心とした業績の向上が報じられていますが、アベノミクス効果も道半ばで、経済的な格差が益々拡大し全ての国民が本当の豊かさを実感できずに景気の停滞感だけが強まっているのが現実と思われます。

同窓会は会員相互の親睦と母校の発展に寄与する活動を行う事を目的に昭和40年3月に設立されましたが、現在の会員数は1万3千4百名有余となり、昨年の6月には50周年記念事業として柴田町(ホテル原田)に於いて記念講演、記念式典、祝賀会を開催し、併せて50周年記念誌の発行や同窓会館内の改装等を行いました。

本年は、100周年に向けての新たなスタートの年として、同窓会の永続的な発展と同窓会設立の目的を達成するにあたって、下記の活動方針を掲げて同窓会の運営に取り組みんで参りますので、会員の皆様はじめ関係各位の皆様のご指導とご支援を宜しくお願い致します。

### 記

- 1 永続的で健全なる財政基盤の確立を目指して、主な収入源としての終身会費制や同窓会会報の発行等についての検討を行います。
- 2 同窓会組織の基盤となる各支部の再構築と活性化を図ります。  
◇現在は地区支部として東京、白石、亘理・山元、仙台支部の4支部  
企業支部としてはホンダ（栃木）、リコーインダストリー（柴田）の2支部が存在  
\*本年度は特に東京支部と地元である白石支部についての活性化に取り組みます。
- 3 メール配信システムの普及啓発により、登録者の拡大に務め、行事案内や情報発信に関わる通信手段についての簡略化と同窓会員の利便性の向上を継続して図ります。
- 4 同窓会としてできる新しい事業活動を委員会で企画・検討し、組織の活性化を図ります。

以上、同窓生の皆様のご要望に副う事ができる事業内容について、積極的に検討して参りますので、皆様の忌憚のないご意見、ご要望をお聞かせください。



## 平成28年度新役員について

今年の1月4日に新役員改選の告示をしまして、立候補者を募集いたしましたが、立候補者がでませんでした。役員専任委員の推薦で今回新役員候補者として上がった方々は、次の通りです。

会 長：鈴木 文夫様（C2回生）新  
副会長：大沼 芳国様（E8回生）留  
副会長：四釜 健治様（A10回生）留  
副会長：高橋 純子様（A30回生）留  
副会長：松本 和彦様（M1回生）新  
副会長：山家 吉治様（S2回生）新  
監 事：白石 秀明様（M8回生）留  
監 事：三浦 義澄様（A14回生）新  
監 事：谷津 武弘様（S7回生）新



この9名の方々が候補者として総会の場で紹介され、会員の方々に承認をいただき、ご挨拶頂きました。

その後、2期会長を務めていただきました菱沼美子様（M2回生）、監事を務めていただきました阿部豊様（M5回生）に、これまでの思いを述べていただきました。同窓会設立50周年式典開催において、また、様々な同窓会活動にご尽力いただきまして、同窓会員一同心から感謝いたします。

本当に、お疲れ様でございました！



総会は、佐藤雄司様（M10回生）の議事進行で滞りなく終わることが出来ました。佐藤様お疲れ様でした。

〇メール配信登録をお願いいたします。

宮城県白石工業高等学校同窓会  
登録用QRコード→→→



携帯電話でQRコードが読み込みできない方は、  
ブラウザで下記のURLを入力して登録して下さい。

<https://t.bme.jp/bm/p/f/tf.php?id=dousoukai>

料金は一切かかりません。

[メールはhakukoudousoukai@gmail.comから配信されます。](mailto:hakukoudousoukai@gmail.com)

## M48回生鈴木完吾さんによる 「ブロック（書き時計）」の発表

今年2月に、東北芸術工科大学プロダクトデザイン学科卒の鈴木完吾さんの卒業制作作品「ブロック」が、話題となったのをご存じの方々は多いと思います。完吾さん本人が、作品をアップロードしたところ、たちまち話題となり、1日で約12万件のリツイートがあり、「世界で通用するレベル」「発想がすごい」などとコメントが相次いだというものです。



その話題となった作品を作ったのが、本校卒業生の鈴木完吾さん(H24年卒M48回生)ということで、本当に驚きました。

完吾さんは、現在CAD関連企業に就職しており、新入社員として忙しい中ではありましたが、なんとか時間を割いていただき、母校のためにということで、総会へ出席し、発表をしてくれました。

発表の内容は、この作品を作ろうと思ったきっかけから、制作時の苦労話、今後の展望という内容でした。

きっかけは、時計に興味があったということと、機械が時間を書いたら面白いのではと思ったのがきっかけだったそうです。どのように書かせるかという時に、からくり人形を思いつき、からくり人形についていろいろと調べ、作り始めたということでした。

部品は全て手作業で切り出し、組み立てて行った様です。1分ごとに0～9までの文字を1本のペンを使用し、繰り返し機械に書かせる仕組みは、複雑なカム機構を組み合わせて作ったとのこと。書くスピードを調整するための部品や、不具合が起きたときの各部品の重心の変更、微妙な形の改良などに時間を費やしたということでした。

最後に、今後の展望として、これからはデジタル時代もさながら、アナログの需要が高まってくるのではないかと感じており、頭の中のイメージを具現化できる技術をもっと磨いていきたいというような事を話してくれました。

発表を聞いての感想は、機構の発想も素晴らしいが、見た目の芸術性も非常に高い作品だと感じました。何よりも、この作品は1年間で完成させられるような代物ではなく、完吾さんの能力をもってこそこの作品だと感じました。

完吾さん、本当にありがとうございました！今後の作品も期待しています！



## 懇親会について

懇親会は、機械科50回生小原瞳子さんと電気科51回生の吉崎裕一さんの司会で開始されました。若い力で会を盛り上げてくれました。本当にありがとうございました。

終盤には、出席者全員で肩を組み、校歌を3番までしっかり熱唱しました。

そして、副会長の建築科10回生四釜健治様によるエールをもって終演という形になりました。



出席者全員が肩を組み和となって校歌を熱唱しました。



建築科10回生四釜健治副会長のエール